

“節目の年”の春闘で閉塞感を打破しよう

2011年春闘アピール

金融の職場で働くみなさん

2011年春闘は、金融労連が発足して5年目の“節目の年”にあたります。

金融労連は、賃金引上げと非正規労働者の待遇改善、働きやすい職場づくり、国民本位の政治実現を目指し、2011年春闘をたたかいます。

リーマン・ショックを契機とした、世界的な経済危機・金融危機から2年余りが経ちましたが、私たちの暮らしは苦しいままで、社会には閉塞感が漂っています。

失業率は5%で高止まりし、2010年の労働者の年収は前年と比較して23万円のマイナス、労働者の4人に1人が年収200万円以下となっています。今春の大卒者の就職内定率は過去最低の69%を記録し（2010年12月1日）、過酷な「就活」が社会的な問題となりました。

その一方で、大企業は政府支援（エコカー減税、エコポイント等）を受け、業績を急ピッチで上昇させました。大企業が積み上げた内部留保は合計441兆円に膨れあがっています。この一部を取り崩し、賃上げ・雇用に活用することが、社会に広がる貧困をなくすためにはどうしても必要です。

政治の動きに目を移し替えると、一昨年、政治の変革を願う国民は政権交代を選択し民主党政権を誕生させましたが、鳩山内閣はわずか8ヶ月余りで崩壊。さらに後継の菅内閣が、法人税減税、消費税増税、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加推進と、自民政権と変わらない「米国・財界いいなり」の姿勢をあらわにしたことで、国民の間には失望と怒りが広がっています。

私たちが働く金融の職場も厳しさを増しています。その象徴とも言える出来事が、パワーハラスメント（パワハラ）の続発です。労働強化が極限まで進んだせいで、「誰もがパワハラの被害者、もしくは加害者になりかねない」状況が生まれてきています。

2011年春闘では、こうした情勢を転換できるかどうか問われています。

金融の職場で働くみなさん

「労働者の大幅賃上げと雇用の拡大・安定化こそが、日本経済の自律的な成長には必要」との確信を持ち、「誰でも月額1万円以上（時間給100円以上）の賃上げ」「非正規労働者の労働条件の抜本的な改善」「臨給・一時金の大幅アップ」をもとめてたたかきましょう。

さらに、「パワハラ、ワーキングプア、不払い残業の撲滅」「金融リスク商品のノルマ販売反対」など、職場の切実な要求を高く掲げてたたかきましょう。

また、消費税増税やTPP参加など、国民生活と地域経済を破壊する諸政策にもノーの声をあげましょう。

2011年春闘での要求前進で閉塞感を打破することを目指し、みなさんが金融労連へ結集されることを心から訴えます。

2011年2月6日

全国金融労働組合連合会
第5回中央委員会